石川林研

No.195

石川県林業研究グループ連絡協議会

年頭のご挨拶

石川県林業研究グループ連絡協議会会長　下　善　裕

新年明けましておめでとうございます。石川県林業研究グループの皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また日頃より林研グループの活動に際しご協力いただき、感謝を申し上げますとともに、お力添えいただき誠にありがとうございます。

長かった新型コロナウィルス感染症も季節性インフルエンザと同じ５類に引き下げられ、いよいよ活発な活動を期待していたところですが、石川県能登地方を震源とした令和５年５月５日の地震、かほく市や津幡町を襲った７月の豪雨災害、全国的に異常といわれた夏から秋にかけた高温・猛暑・酷暑と生活を脅かす社会環境だったように思えます。しかしそんな状況下でも私たちを見守る山々の森林は環境に応じながら育っています。今私たちがこの地球上に命を受け生きていることは、これまで当たり前のように存在している森林の恩恵だということをあらためて考える必要があります。

いま世界の森林を保護、強化することは、最も費用対効果の大きい気候変動対策の一つとさえ言われています。森林は炭素吸収源として、毎年およそ２０億トンの二酸化炭素を吸収し、持続可能な森林管理を行えば気候変動の緩和と適応にも役立つ可能性があります。

我々林業研究グループも森林に携わる者としてポリシーをもって、持続可能な森林管理を模索し、取組む必要があります。それぞれの地域の山林の管理をどうやって持続するか、どうやったらできるか、他人ごとではありません。また、化石燃料が再生可能エネルギーへと置き換わっていく中で、森林も重要なエネルギー源となるのではないでしょうか。森林はすでに、薪という形で全世界の再生可能エネルギーの約４０％を供給していますが、これは太陽光、水力、風力発電を合わせた規模に匹敵するといわれています。また一方では、違法で持続不可能な伐採が森林に壊滅的な影響を及ぼしていることを認識していますが、実際のところ、森林破壊の世界最大の原因は農業です。広大な森林が農地や放牧地に変えられていることも事実です。農業生産の継続的増大をいかに管理し、全体的な森林面積を減らすことなく、食料の安全保障を改善すべきか、という点が重大な課題となっています。

また今後の森林・林業を持続可能なものとするには全国的な挑戦が不可欠です。そこで、我が国において人口減少や高齢化が急速に進展する中で、将来にわたり森林を適切に整備・保全していくためには、その担い手となる林業労働力の確保が重要な課題となっています。こうした中、令和３(２０２１)年６月に閣議決定された「森林・林業基本計画」では、「グリーン成長」の実現に向け、再造林の推進や、新たな技術の導入の推進、労働安全対策の強化等が掲げられ、さらに、政府全体として「人への投資」がクローズアップされている状況等を踏まえ、令和４(２０２２)年１０月に、「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づく基本方針を変更しました。新たな基本方針では、①「新しい林業」の実現に必要な造林やＩＣＴ等の知識や技術、技能を持つ人材の確保・育成 ②極めて高い労働災害の発生状況を改善するため、伐木作業及び小規模経営体の安全対策強化や、高性能林業機械等の導入・開発の促進 ③地域の実態に応じた林業への新規参入・起業、自伐型林業や特定地域づくり事業協同組合の枠組みの活用、地域間の労働力のマッチング等の取組の促進 ④女性の活躍・定着に向けた交流機会の創出や職場環境改善の促進、外国人材の適正な受入れに向けた特定技能制度の活用の検討等を新たに記載し、林業労働力の確保に関する方向性が示されています。今後、新たな基本方針を踏まえ、都道府県や林業関係団体等の関係者との連携により林業従事者が生きがいを持って働ける魅力ある林業の実現に向けた取組を推進していくこととしています。それから令和４年度の林業白書では地形が急峻で降水量が多い我が国において、森林は国土保全上重要な役割を果たしている。過去には社会経済活動を進める中で森林資源への依存が高まり森林の荒廃が進んだが、戦後の治山対策と森林整備の進展等によって、現在、我が国の森林は充実し、森林の国土保全機能は高まってきているといえる。一方で、近年の気候変動により山地災害が激甚化するとともにその発生形態が変化してきており、こうした状況に適応して引き続き災害に対して強靭な国土を作っていく必要があると記述されています。我々林研グループも重要な担い手として本年も活動して行きましょう。

全国林業グループ 中部・北陸大会開催

令和５年度中部・北陸ブロック林業グループコンクールが今年度は石川県が開催県となった。

令和５年８月３１日(木)「ＩＴビジネスプラザ武蔵」にて、中部８県のグループ活動発表が総勢５０名の参加者で開催された。

開催宣言を、今回の当番県である、石川県林研 下 善裕会長のあいさつで始まりました。

続いて、全林研副会長 鈴木様、石川県を代表して林業試験場 横間場長様、林野庁研究指導課長補佐吉岡様、全国林業改良普及協会専務理事 中山様、方々のごあいさつを頂きました。

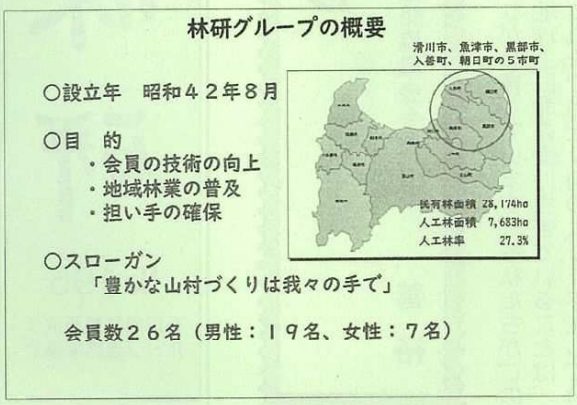
その後、活動発表に移り、来年の当番県である富山県の発表となった。８県のグループ活動発表が終了後、一席には富山県、次席には福井県となりました。後、発表順に表彰式が行なわれました。

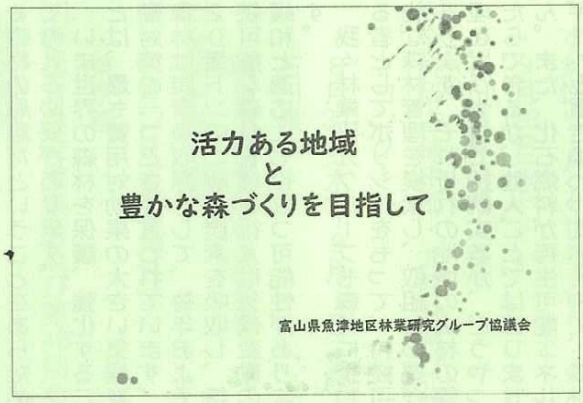
最後に８年振りに開催となりました石川県大会におきまして、多大なるご協力、ご協賛を頂きました。

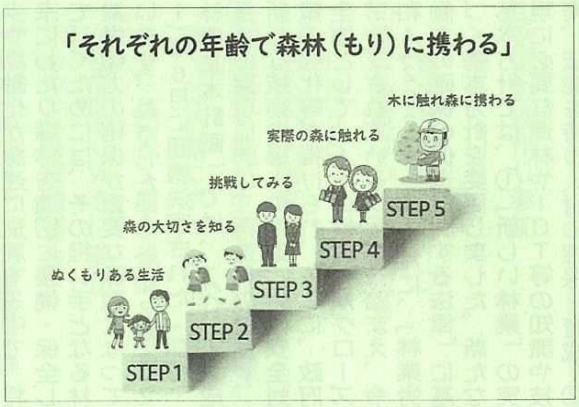
石川県林業普及指導職員協議会様、かが森林組合様、金沢森林組合様、中能登森林組合様、能登森林組合様、この紙面を持ちましてお礼とさせて頂きます。ありがとうございました。

今後共、ご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

一席　富山県魚津地区林業グループ発表概要（抜粋）







第46回全国育林交流集会　いばらき２０２３

能登町林業研究クラブ

「第４６回全国林業交流集会　いばらき２０２３」が１１月１１日茨城県大子町文化福祉会館「まいん」文化ホールで開かれ、全国から林業グループ等、林業関係者約４００人が参加した。この大会は「全国育樹祭関連行事」として各県で開催されているようです。

今年度、参加させて頂いた我々３人は、会場に到着後、自然農法を取り入れた農林業を６０年以上続けている方に出会いました。８０歳代と思われるこの方は、「自然環境を大事に心がけて農林業をやっている。クレソンは美しい水で育ち、森林は空気、水を作り出す大切なエネルギー」力強く話され、クレソン、リンゴの飴とお茶を頂き、大変美味しくあっさりしたものでした。

１３時より主催者あいさつ、来賓祝辞、歓迎あいさつの言葉にはじまり、事例発表として、ナビゲーター㈱モリアゲ代表 長野麻子氏、プレゼンター 大子森林組合 石井氏、国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所 伊神氏、建築家 遠藤氏、この遠藤さんのプレゼンターから。

大子町は、８割が森林を占めており、良質な八溝材を産出する林業が盛んな町です。令和４年９月に供用開始した庁舎は、全国的にも珍しい延床面積５０００㎡を超える純木造庁舎です。柱や梁、方杖といった構造材はすべて茨城県産材、そのうち６割は大子産材であり、総じて約９００㎥の木材を使用している。

製材、集成材・ＢＰ材の３種の木材による架構を林立させた計画で、３・６ｍ間隔の柱が林立する庁舎内は、まさに森の中にいるような感覚に包まれます。機会があれば会員皆さんで視察に行く価値もあるかと思います。

二日目「誰かじゃない僕が育てる緑の日本」の大会テーマで全国育樹祭が開催され、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席とお言葉を頂きました。メインテーマとして、森林総合研究所 宇都木氏から「林業の機械化とロボット等の活用について」宇宙飛行士 毛利氏から、宇宙から地球を眺めた時、森林地帯が美しく確認出来る、宇宙と森林の未来が繋がるそれが今まさに実現するであろうと、壮大な話を聞く事が出来ました。

最後に願う事は、これからの若者は宇宙、ロボット、ＩＴを取り入れた林業とは言わず、今、自分の職業にと考えて欲しいと思います。

「巨樹をはかろう」
～こども森の恵み推進事業の取り組み～

穴水町林業研究会

穴水町林業研究会は、これまでも地域の子供たちに対して、森林・林業や自然環境に興味を持ってもらおうと、さまざまな活動を行ってきました。

令和５年度は、いしかわ森林環境税を活用して県が行っているソフト事業「こども森の恵み推進事業」で、地元にある大きな木（巨樹）に目を付け、これを測ってみようという取り組みをしました。

女性部長の坂本ちづるさんが、石川県巨樹の会の理事をされていることから、昨年の理事会で能登の巨樹も測りたいとの要望を受けて実施しました。

実施に当たっては、地元の高校教諭等のネットワークを利用して、参加する小中学生を募り、夏休み中の開催を目指しましたが、今年の夏は異常な暑さで屋外の活動は、子供たちの健康管理が難しいと判断して、涼しくなった秋頃に開催することになりました。

早速、石川県巨樹の会副会長の間明弘光さんに相談して、測量に必要な道具等の準備に取りかかり、足りない物は補充する形で対応しました。

しかし、９月になっても暑い日が続いたことから、開催日は１１月５日となりました。

当日は、地元の小学生、中学生各１名とその親子や先生たち９名、県林業研究グループ連絡協議会の下会長、女性部からは坂本部長をはじめ８名が参加しました。

坂本部長の挨拶の後、はじめに間明さんに講師をお願いし、県内の巨樹についてお話しいただき、巨樹の測り方を教わりしました。

お話しの中で、巨樹とは地上１３０㎝の高さで幹周が３ｍを超える木だと説明があり、県内には巨樹と呼ばれる木が約２４００本もあることを教えていただきました。

また、話の途中には「木の生長について」のクイズもあり、参加者は興味津々で聞き入り、楽しい話しはあっと言う間に終わりました。

続いて、屋外での活動となり、午前中は雨が降るなどお天気が心配でしたが、これが巨樹のパワーなのか？青空まで見えてきて、日頃の行いが良い人が集まったなと思いました。

はじめに、坂本家の敷地内にあるモミの巨樹を実際に測る様子を見学しました。

測定には、巨樹の会からは奥能登農林総合事務所森林部の一二三専門員にもお手伝いいただきました。

いよいよ、巻尺で幹周を測る際は、人の胸囲をはかるのと同じ要領でしたが、モミの木は４ｍ５３㎝もあり、けた外れの大きさであることがわかりました。

間明さんは、この測定結果をきちんと記録用紙に記載して、石川県巨樹の会の大切なデータとして持ち帰るとのことで、さすがは巨樹の会、しっかりしているなあと感心しました。

また、間明さんから家の前のバス停横にあるケヤキが、「巨樹の条件を満たしているのではないか？測ってみよう。」と提案があり、参加者が実際に測ってみると、なんと幹周３ｍ３５㎝もあり、巨樹の条件である３ｍ超えで見事、新たに巨樹として登録という、うれしいニュースがあり、参加者からは拍手が起こりました。

活動後は、再度、皆が集まり、子供たちから今日の感想を述べてもらいました。

そして、最後に間明さんから「ウッドタッチ」という言葉があると説明があり、巨樹の会のスタンプが押してある、間伐材でできたコースターをいただきました。

秋の一日、大変有意義な活動ができたと感謝しております。

これからも、このような取り組みを通して、身近な樹木や森林・林業を伝える活動をしたいと思います。

令和5年度　活動計画

令和5年度第1回役員会は書面議決となった。本年度県林研活動の具体的な取組等についてご報告致します。

1、会　議

(1)役員会
　第1回　書面議決
　第2回　6年1月19日

(2)総会及び実績発表等
　6年3月9日(土)
　加賀地区(予定)

2、会誌発行

(1)「石川林研」年2回発行
(2)「やまびこ」年1回発行
(3)「現代林業」毎月配付

3、研修派遣

(1)第51回全国林業後継者大会及び第73回全国植樹祭
・6月3日(土)～4日(日)
・岩手県

(2)森林・林業を活かして地域を興す女性リーダーセミナー
・9月28日(水)
・石川県林研婦人部

(3)全林研主催中部・北陸林業グループコンクール
・8月31日(木)～9月1日(金)
・石川県
・輪島市林業研究会(発表)

(4)全国中央研修会
・11月17日(金)～18日(土)
・東京都

(5)全国育林交流集会及び第46回全国育樹祭
・11月11日(土)～12日(日)
・茨城県

(6)全国林研グループ・総会
・6年3月中旬
・東京都

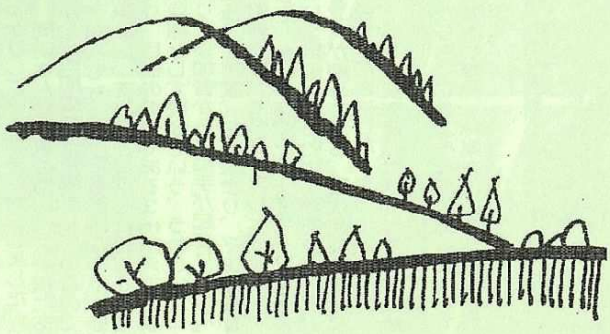
4、県林研活動

(1)企業の森作り参加
・10月～11月
・県内各林研グループ

(2)農林漁業はつらつ交流会
・12月5日(火)
・小松市木場潟

(3)県林研会員が主体となり地域に合った活動にチャレンジする
・ミニ門松・原木伐採・搬出
・全国FCWSに参加
・ジビエ料理講習会
・シイタケ・ナメコ植菌作業
・担い手育成講習会・下草刈り

(4)林業教室（新規参入コース）
・河北郡林研、輪島市林研



石川林研（石川の林業　No.八二四号　付録）令和六年一月十日発行
発　行　石川県林業研究グループ連絡協議会
住　所　河北郡津幡町加賀爪ホー　TEL076-254-5337
監　修　石川県農林総合研究センター林業試験場